



第 37 回 日韓技術士会議報告

技術士（建設部門） 市 村 一 志

1. はじめに

第 37 回日韓技術士会議は、ソウルにおいて平成 19 年 9 月 30 日(日)から 10 月 2 日(火)まで開催されました。参加者は技術士、同伴者、事務局含めて、日本側が 91 名（技術士 76 名）、韓国側が 181 名（技術士 128 名）の総勢 272 名の大変な人数になりました。会議の概要は、社団法人日本技術士会の「PE 技術士 12・2007」を参照下さい。日韓技術士会は、今回で 37 回目を迎え、運営の変節点を感じることが多々あったこと、産業視察の概要を述べることであります。

2. 青年技術士、女性技術士の日韓交流

日韓の青年技術士の交流は、3 年前から韓国の青年技術士の呼びかけで始まり、毎回行われるようになりました。具体的には、本会議の前日にサッカー試合を行ってたっぷり汗を流した後、懇親会を開き仲良くなるパターンです。本会議では、第 5 分科会を任せられ、英語発表の自由課題で運営するまでになりました。はじめは、「なぜ日韓技術士会議でサッカーなのか?」、「費用はどうするか?」、「サッカーは当会議の枠の中に入るのか、別なのか?」と様々な疑問が出されました。しかし、これからの日韓技術士会を背負う若い人達による国際交流が重要と考え、そのチャンスの場の一つと捉えて続けることになりました。今年の日本での日韓技術士会議は新潟で行われますが、青年技術士のサッカー試合は当然入っており、いつも負けているので、今回は絶対勝つと意気込んでいます。

今回の日韓技術士会議を契機に日韓の女性技術士討論会が初めて行われました。参加者は、日本側が

岩熊副会長を含め 10 名、韓国側が李理事・女性委員長含め 11 名で、日韓技術士の役割をテーマに話し合われました。両国女性技術士の意見の一致したことは、技術士の環境が「男尊女卑」の世界であることと共通認識したそうです。この討論会は、今後定期的に継続するということではなく、その時々で必要性で判断することになったようです。

3. 仁川生産基地

産業視察の中で、幾つか印象に残ったプロジェクトを紹介します。

仁川生産基地は、ハブ空港である仁川国際空港を中心にアジアゲートウェイとして、IFEZ (Incheon Free Economic Zone) プロジェクト構想を立案し、2020 年の完成を目指して建設中です。

その中でも中心となる新都市の松島地区は、テクノパークとしてベンチャービル、企業研究所等生産、情報交流システムの新産業団地として建設中です。国際ビジネスの中心となる国際ビジネスセンターは、150 階、610 m の高さの世界 3 番目の超高層ビル



超高層住宅の建設

で、自慢げに今年着工したと説明を受けました。資金は、米国の投資会社から受けて合作会社を設立しているそうです。

インフラ事業で大きいのは、仁川国際空港の滑走路を更に2本追加整備（合計4本）と空港とソウルを結ぶ新ルートの建設です。新ルートの建設は、事業主体が三星電子（サムスン）で、総延長18.2km（内、海上が12.3km）、2009年10月完成、英国から投資を受けての事業です。完成後は、30年償還の計算で交通料金を徴収するそうです。見学者の中には30年償還では終わらないと言う人もいました。その他のアクセスとして仁川空港鉄道の計画も進んでいます。

今韓国では、外国からの投資の自由化により、日本では既に終わった建設バブルの感がありますが、一方ではウォン高による輸出の伸びが足りないことと、若者の働くチャンスが少ないことが、社会問題になっています。



建設中の仁川大橋（長840m、高70m）

4. 清溪川（チョンゲチョン）の復元整備

今回の韓国大統領選挙で当選したイ・ミョンバク氏は、ソウル市長の時代、かつて都市貧民の住居地だった清溪川に建設された高架を含めて10車線の道路を完全に撤去して、2005年9月に元の川と緑を復元し、周辺の再開発を行い、街の活気と市民の誇りを取り戻しました。清溪川の整備は、清流と遊歩道の5.7kmの整備で、河川による分断を避けるために22本の橋を建設し、両側の商店街の振興を図

り、眺望スペースや遺跡を残す工夫もしています。

チョンゲチョン・ミュージアムでは、19世紀までの生活、20世紀の都市貧民の住居時代、高架道路時代、復元整備後の4段階を模型で見て、その勇気ある計画と実行に韓国の新しい時代を感じました。話は前後しますが、友好親善晩餐会で、何人かの韓国技術士と話をした時、今度の大統領はイ・ミョンバク氏になるだろう、そして仕事も増えるだろう、しかし建設関係の仕事に偏るような気がする、と必ずしも喜んでいないのが印象に残りました。



清溪川の都市貧民の住居時代（模型）

最近、東京の日本橋川に建設された都心環状線の撤去の話も、このチョンゲチョンの復元整備に影響されている様です。

5. おわりに

日韓技術士会議は、韓国に興味ある方の会から、会を重ねる毎に交流者の幅が広がってきて、隣国との技術者同士の国際交流という性格を帯びてきました。平成21年度から日韓技術士会議実行委員会は、大幅に委員の交代があります。私も退会させていただくことになっています。

今年の日韓技術士会議は新潟で開催されますので、多くの皆さんに参加していただくことを希望します。

最後になりましたが、私は今回の日韓技術士会議におきまして、友好親善の功として感謝碑を頂きました。紙面をお借りしまして感謝申し上げます。